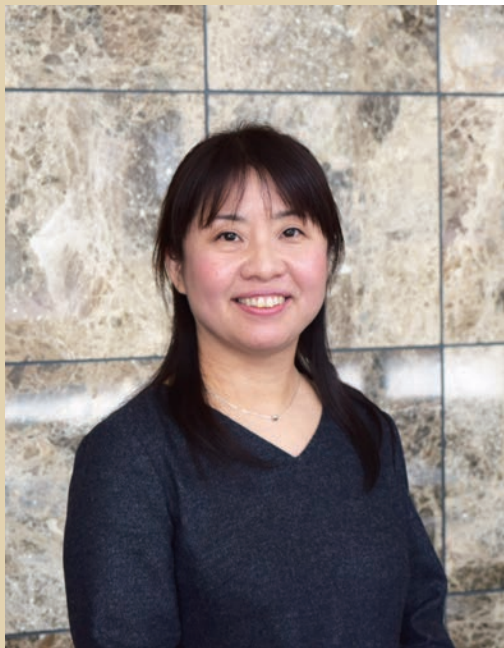


チェンバロの魅力にふれる 贅沢な時間を



鍵盤楽器奏者

たか はし ち え
高橋 千恵 さん

大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻を卒業し、ピアノ講師として子どもから大人まで幅広く指導にあたる高橋千恵さん。パルナソスホールで1993年に開講した「オルガン講座」、2005年開講の「チェンバロ講座」を修了し、バッハのカンタータを中心に演奏するアンサンブル「HARIMAムジークハルモニー」でチェンバロを担当するほか、パルナソスホールで開かれる「メサイア」演奏会に第2回から出演しています。また、同ホールで実施している「チェンバロ講座」1日体験・入門コースの講師も務めています。

「チェンバロ講座」は、楽器を活用し良い状態を保つとともに受講者がバロック音楽に興味を持つきっかけとなるよう、東京藝術大学音楽学部教授でチェンバロ奏者としても活動する大塚直哉さんを講師に迎えて始めました。高橋さんは開講の前年に大塚さんの演奏を聴き、「それまでに聴いたチェンバロの音と違って感動しました。繊細で、強弱のほとんどつかない楽器だと思っていたのに、とても豊かな響きで、重なり合う音の減衰が美しく、『ちゃんと学びたい!』と受講を決めました」。

大塚さんのもとで初級～上級コースを修了し、初級コース希望者のために新設された準備講座「入門コース」を2016年から担当。鍵盤楽器経験者が対象ですが、ピアノとは発音の仕組みが違うため、美しく鳴らすためのタッチの練習から始まります。2017年新設の「1日体験」はチェンバロに興味がある人なら誰でも参加でき、夏休みの自由研究課題にする小学生やバロック音楽鑑賞が好きな人、間近で楽器を見てみたい人など動機はさまざま。「まず楽器の美しさに感激されます。響板に描かれた絵、本体の装飾などを、楽器のまわりをぐるぐる回って観察しておられます」。

ピアノはハンマーが弦を叩くことで音が鳴りますが、チェンバロは小さな爪がピアノよりもずっと柔らかい弦を弾いて発音します。「経験者でなくても、鍵盤にふれると音が響く瞬間を感じることができます。独特の発音、音の消え方の美しさ、いくつかの音色を変化させる方法。それらの仕組みを間近で見ると、演奏会でより楽しめるし、作品の聴きかたも変わると思います」と高橋さん。「チェンバロのある施設が少なく、公立のホールで一般向けの講座を開いているのは県内ではここだけだと思います。パルナソスホールは『ここで弾く』こと自体がうれしいホール。体験もレッスンも舞台上で行いますので、チェンバロの魅力と贅沢な時間をぜひ味わってください」と呼びかけています。

※チェンバロ講座「1日体験」は2月9日(土)に開講。応募については9ページをご覧ください。「入門コース」は3月から募集を開始します。
※「メサイア」演奏会の詳細は巻末の「事業あんない」をご覧ください。

表紙解説

市民ギャラリー

藤原向意 《祖先の木2》

昭和38年(1963)

所蔵品展示「美術作品の広がり」出品作品

会期：1月6日(日)～19日(土)まで

藤原向意は、拾ってきた木やペットボトルなど、さまざまなものを組み合わせて作品をつくるユニークな現代美術の作家です。現在も故郷の加古川市に住み、制作活動を行っています。

もともと藤原は絵画や版画を制作していました。版画においてもユニークな表現がみられます。《祖先の木2》は版画作品のひとつ。この木は実在し、「築山の榎」として加古川市の指定文化財になっています。この木をモチーフに何点かの作品が制作されていますが、いずれも抽象的に描かれています。木版画という伝統的な技法でありながら、現代的な表現を試み、生命感あふれる作品に仕上がっています。